

平成21年11月19日

平成21年

第11回教育委員会定例会会議録

大田区役所 教育委員会室

平成21年第11回教育委員会定例会会議録

平成 21 年 11 月 19 日午後 2 時 10 分大田区教育委員会定例会を開催した。

1 出席委員

野 口 和 矩	委 員	委員長
渡 邊 盛 雄	委 員	
高 山 美智子	委 員	
清 水 繁	委 員	教育長

計 4 名

2 出席した職員

教育総務部長	金 澤 彰
教育地域力推進担当部長	金 子 武 史
教育総務課長	下遠野 茂
教育改革担当課長	薄 根 幸
施設担当課長	石 井 一 雄
教育事務改善担当課長	福 本 英 也
学務課長（私学行政担当課長兼務）	小 泉 邦 雄
校外施設整備担当課長	星 光 吉
指導課長（教育センター所長兼務、 幼児教育センター所長兼務）	鈴 村 邦 夫
副参事	内 野 雅 晶
社会教育課長	榎 田 隆 一
大田図書館長	平 野 秀 康

計 12 名

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条及び大田区教育委員会会議規則第 3 条により、第 11 回大田区教育委員会定例会を招集した者は、次のとおりである。

委員長 野 口 和 矩

○委員長

平成21年第11回教育委員会定例会を開催する。

これより審議に入る。本日の出席委員数は定足数である。よって会議は成立した。

次に、会議録署名委員に清水教育長を指名する。

日程第1 「教育長の報告事項」

○委員長

教育長からの報告を求める。

○教育長

1 清水窪小学校の研究発表会での東京工業大学との連携について

11月17日に清水窪小学校の研究発表会があった。同小学校は、東京工業大学の指導を受けながら、小学校の理科教育について研究を進めてきた。この度、2年間の研究の成果を発表したが、その場に東京工業大学の副学長の大倉先生も見えた。また、プラズマ研究の権威である鈴木教授にも、短時間ではあったが講義をしていただくなど、東京工業大学の全面的なバックアップを感じる研究発表会があった。

大倉副学長のお話では、東京工業大学は日本でトップの理系学校であるが、他の学部も入れると総合4位程度とのことであった。最近では、高校生の理科離れが進み、物理を選択する高校生は、全体の30%程度だという。東京工業大学は、物理学が必修なので物理を選択している高校生しか入学できない。大学としては、もっと幅広く物理を学んだ子どもを入学させたいので、理科が好きな子どもをぜひ、育成していきたいというお話があった。

2 東京工業大学と大田区との関係について

(1) 現在、東京工業大学の研究、大田区のものづくりの中小企業の技術、それから大田区の三者が一体となって、呑川の浄化プロジェクトを推進している。このプロジェクトが成功すれば、東南アジアも含めたいろいろなところでその成果を発揮できるのではないかと期待している。大倉副学長から、東京工業大学としても関心を持って取り組んでいるという話があった。

(2) 教育の分野については、清水窪小学校を拠点校として、小学生に対して理科教育をしていく。すべての先端技術は、基礎的な学習である理科がベースとなっているのだということを子どもたちに伝え、この過程を通して、大学そのものも活力を持っていこうという考え方で取り組んでいるということである。

(3) 地域の方々と一緒になって地域防災を進めていこうとしている。地域の町会、その他の方たちと東京工業大学をもとに防災訓練を行うことで、大田区と提携を進めていくという話があり、非常に熱意ある姿勢を感じ取ることができた。

3 理科の好きな子どもを育てていくことについて

(1) 鈴木教授から次のような話があった。大学には事務教授も含めて約1,200人の

スタッフがいて、それぞれの分野でトップクラスの研究をやっている。その研究について子どもにわかりやすく話すことは非常に難しい。小学校の教員が十分勉強し、その専門的なものを一般教養的なものに翻訳して、授業が子どもたちにわかりやすくすることが大事で、理科教育も進展のためには必要だろうということであった。

(2)西條教授は、サイエンスの言葉を翻訳して、誰にでもわかるような言葉で伝えていくというサイエンスリテラシーなどを研究されている方である。教授からは、意欲のある教員が専門的な知識をそのまま教えるのではなく、本当にわかりやすい理科の知識として、自身の頭の中で、あるいは常日ごろの学習過程の中で変換する努力を続け、それを子どもたちに伝えていく必要がある。こういうサイエンスの言葉の翻訳という技術的な作業がどんどん進化していかなければならないということであった。

(3)理科の好きな子どもを育てていくということになると、小学校の教員も意欲を持って取り組んでいかないといけない。東京工業大学とは、今後も更に連携しながら、今度は教師同士が切磋琢磨するような研修会を開いて、理科の好きな子どもをどうやって育てるかといった点で努力していかなければならないと感じた。

○委員長

ただいまの教育長の報告に意見、質問はあるか。

○委員長

東京工業大学と大田区との連携について教育長から報告があった。日本工学院専門学校にも大学が新設されると聞いている。例えば、研修会や大学での体験学習などで、日本工学院大学とも連携していけたら良いと思う。

○教育長

今の委員長のお話については、区長も日本工学院大学とも提携して、その技術能力を十分活用して、大田区の教育に生かしていきたいという考えだ。東京工業大学は、基礎的な研究も日本トップクラスなので、それはそれで活かしていき、日本工学院専門学校もいろいろな先端的技術について研究しているので、キャリア教育も含めて十分活用させていただきたいと思う。

○委員長

ほかに意見、質問はないか。

(「なし」との声あり)

○委員長

承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

承認する。

日程第2について、事務局職員の説明を求める。

日程第2 「部長、課長の報告事項」

○学務課長

(資料) 平成22年度新入学に関わる指定校変更及び区域外就学について

平成22年度新入学に関わる指定校変更及び区域外就学について、近年、指定校変更等の申請は増加傾向にあるが、各学校の教室数など、施設規模には一定の限界があること等を踏まえ、これらの申請への基本的な対応を定めた。

基本的な考え方としては、一つ目として、当該校の施設規模に応じ、その範囲内において認める。二つ目として、区域外就学は原則として許可しないとしている。

指定校変更の学校別対応について、将来の学級数の推移と施設規模の面から対応を大きく三つに分けて定めている。一つ目は、表上段にある当該区域内の児童しか受け入れない学校で、対象校は山王、千鳥、池雪、矢口西小学校の4校である。二つ目は、通学区域内の児童・生徒を入学させた上で、余裕があれば入学できるという学校で、一定の学級数を超えた場合は抽選とする。表の大森第四小学校から東調布中学校までの11校である。三つ目は現時点で教室数に余裕があるものとするが、急に児童・生徒数が増加し、教室が不足すると判明した場合は抽選とするといったその他の学校である。

今後のスケジュールは、就学通知を12月18日に発送して、平成22年1月9日、10日、12日に指定校変更申請の受付を行い、1月22日時点での申請数に基づき、抽選を実施するか判断する。

なお、区民への周知は、12月21日号の区報で行う予定である。

○委員長

ただいまの報告に意見・質問はあるか。

(「なし」との声あり)

○委員長

承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

承認する。

11月16日、17日に宇都宮で開催された市町村教育委員会研究協議会に委員長として出席したので、報告する。

1日目は講演と全体協議、2日目は分科会が行われた。私が参加した第3分科会のテーマは、地域における学校支援の方策についてであった。

民主党は、マニフェストで3兆予算削減としているが、その中には教育関係も入っている。例えば、高校授業料の無料化、教育委員会制度の見直しや学校運営委員会などがあり、まだ詳細については、はっきりしていない。今後、区の教育委員会や、教育がどのようなになるのか明確につかめない状況にあるので、協議会や事務局において、今回の研究協議会資料を参考資料として活用して欲しいと思う。

他に、意見・質問はあるか。

○高山委員

最近、インフルエンザが少なくはなってきたようだが、近隣の学校で音楽祭のプログラムを縮めたり、青少年対策地区委員の行事を中止したり、かなり気を使っていると耳にする。大田区全体のインフルエンザの発生状況はどうか。

また、区が各学校に配ったマスクの効力についても話が出ているようだが、今後のインフルエンザのことなども含めて、渡邊委員にも意見を伺いたい。

○学務課長

インフルエンザの状況については、先週までに、学級閉鎖や学校閉鎖などの学校が20校程度出ており、まだ蔓延状態が続いている。

○委員長

高齢者はかからないといわれているようだが、いかがか。

○渡邊委員

私は、小学校の学校医をしているが、研修のときに校長と話したが、今は、新型インフルエンザの流行当初のような大々的な休校などは行わないということだった。また、移動教室などで熱が出た場合等は、家族に迎えに来てもらい、その他のお子さんは移動教室を終わらせて帰るということである。私は、当初のような神経質さは一般的になまっていると思う。

マスクの問題については、確かに昔からあまり効き目がないと一般的には言われている。しかし、人込みや電車の中でくしゃみや咳をするときは、マスクをすることである程度カバーする役目はあると考えている。実際にインフルエンザにかかっている人は、ぜひマスクをしてほしい。それにより、細かなつばきやせきが人にかからないような効果を期待したい。最近、マスクをしている人も少ないようだが、割合神経質な方や女性などは、朝のラッシュ時などにマスクをされている方もいると感じている。

また、いよいよ新型インフルエンザのワクチンが出回り始めたが、まだスムーズにっていないところがあり、本当に軌道に乗ったというところまではいっていないように思う。例えば、区で行っている予防接種費用助成の用紙や問診票の種類が5、6種類と多いので、その人がどれに当てはまるかを選び出してそろえるのに時間がかかっている。

私の医院では、赤ちゃんや小学生以下の子どもたちには、混雑する午前中よりも少しゆっくりした午後の診察時間に来てもらうようにしている。他の医院ではどのようにしているかわからないが、私のところはあまり人手がないのでそのようにしている。特に2、3歳くらいの小さい子どもをお持ちの親御さんからはよく電話がかかっている、ぜひ受けようという気持ちは持っているようだ。もう少し順序よくスムーズにインフルエンザの予防接種ができるようになれば、もっと能率的な対応となると思う。

○ 委員長

これからもっと寒くなると、またインフルエンザ流行が予想される。対応をお願いしたいと思う。

では、ほかに意見、質問はないか。

(「なし」との声あり)

○ 委員長

それでは、承認してよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

○ 委員長

承認する。

これをもって、第11回教育委員会定例会を閉会する。

(午後2時41分閉会)